

サーチライト With Pastor Jon 創世記 3 章 パート 2

.....
このメッセージはアップルゲート クリスチャン フェローシップの、ジョン・コーソン牧師が公開したメッセージを、アメリカ在住の日本人クリスチャン木下言波が翻訳して YOUTUBE やブログに上げたものを文字化したものです。世界的なインターネット規制が始まろうとしています。私達はその日のために、文字にして紙に記録する必要を感じました。また、インターネットに不慣れな方や字幕を追って読むのが困難な方のためにも必要があると主に迫られたと感じます。

※インターネットのメッセージを、文章化するこの働きを始めた姉妹が、現在目を患って治療中です。どうか、りよくさんの為にも、お祈りください。

「きょう、もし御声を聞くならば、あなたがたの心をかたくなにはならない。」ヘブル 4 : 7

メッセージ by ジョン・コーソン牧師 アップルゲート クリスチャン フェローシップ

<http://joncourson.com/>

7590 Highway 238 Jacksonville, OR 97530

訳 by 木下言波 DivineUS : <https://www.youtube.com/user/TheDivineUs>

筆記 by Rumi

禁断の木の実が何であったかは分かりませんが、何であったとしても、それがアダムに与えられた時、彼はエバが惑わされたことを知っていたのです。

言い換えれば、もしエバがこの禁断の木の実を食べたなら、彼女は罪に墮ちるということで、ここで二つの異なったレベル、別れ道に立っています。

しかしアダムは決めました。何を？ 神に聞き従うよりも彼女と一緒にいることを。

「私は自分自身をおとしめて、破滅に向かう方を選ぶ。」

「神を信じ全ての問題を神に委ねて神に聞き従うよりも、彼女と共にいよう。」

最近いつ話したか忘れたましたが、この話を皆さんに語ってきました。

人は今でも同じ間違いを犯しています。

「間違っているのは分かっている。それでも彼女と一緒にいたいんだ。」でしょ。

「何があっても彼と一緒にいたいよ。彼がクリスチャンでないことは分かっている。それは後で何とかするわ。」

「彼女に夫がいることは知っている。それは後で何とかする。その尻拭いは後でやるよ。」

今でも同じような選択をしています。アダムが神に信頼する代わりに、神に背を向けることを決心したのと同じ選択です。

「主よ。あなたが私に彼女を与えたのです。」

彼女が惑わされても、アダムが神に立ち返っていたらどうなっていたでしょう。

私は個人的に、神は必ず驚くような形で解決したと思っています。

しかしアダムは、「ロマンスが壊れるのを自分の力で何とかしなくては!!」と考えました。それで実を食べ、仲間に加わってしまったのです。

このようにして、ふたりの目は開かれ、それで彼らは自分たちが裸であることを知った。

そこで、彼らは、いちじくの葉をつづり合わせて、自分たちの腰のおおいを作った。

(創世記 3:7)

エデンの園で唯一、具体的に名前が挙がっている実は“いちじく”だけ。

とても興味深いのですが、マルコ 11 章でイエスは、いちじくの木に何をしましたか？

その木を呪いましたね。葉が茂っているから、いちじくの実もあるべきなのに、葉と共に実があるべきなのに、実がなっていないからです。その木はイエスの空腹を満たすことができませんでした。イエスはあの日、お腹がすいていた。それでいちじくの木を見たら、実がなっていないのでその木を呪いました。

「今後、いつまでも、だれもおまえの実を食べることがないように。」(マルコ 11:14)

と主が言うと、木は呪われ、根まで枯れました。

これが意味することは色々ありますが、キリストを満足させられない木からは、誰もその実を食べることはできないのです。

もし私の人生がイエスを満足させていないなら、私はベンジャミン（息子）もメアリー（娘）も満足させることはできません。クリスティ（娘）もピーター・ジョン（息子）もタミー（妻も）。他の誰をも。

私が主を喜ばせることを最優先にしなければ、誰ひとりとして私から食べることはできません。私がまず第一にキリストを、私の主を満足させる。

主に献げるべき人生の実を、イエスに収穫してもらうのはとても大切なことです。

賛美のささげ物、早朝主に愛を伝えること、そよ風の吹く中を主と共に歩くこと、主に愛されるように。そうでなければ、あなたは誰をも満足させることはできません。全く。

創世記やマルコ書、そしてマタイ書のオリーブ山の説教が伝えていることのすべては、「私は裸だ。よし！自分の力と努力でこれを覆い隠そう。」という考えに集約されます。それは、「私は罪人で空っぽだけど、善行を行って善人になろう。」とか「民主党全国委員会に貢献しよう。」とか他の何でも、「多分それをやれば、自分の裸の部分が隠せる」という思いで、すべてを取り繕ってしまうことです。

しかし実際は、いちじくの葉はイガイガ、チクチクするだけで何も隠せません。

だから神は、御子を通して、このニセモノのいちじくの木を呪わせ、新約の絵と型に於いても、もう一度教えようとしたのです。

いちじくの木は呪われました。いちじくの木はイスラエルを象徴しています。

国家としてのイスラエルであれ、あなた個人であれ、持って生まれた裸や空虚さを、アダムとエバがかつてエデンの園でいちじくの葉を用いたように、あなたの労力や努力で隠すことはできないのです。

そよ風の吹くころ、彼らは園を歩き回られる神である主の声を聞いた。

それで人とその妻は、神である主の御顔を避けて園の木の間に身を隠した。(創世記 3:8)

イガイガ、チクチクするいちじくの実に身を包んだ二人は、神の声を聞いて隠れました。

罪がいつもさせるのは、主から身を隠し、主と反対方向に逃げ去ること。

罪は私たちの喜びの杯に亀裂と漏れを引き起こすので、喜びが失われてしまうのです。そよ風の吹く中を手にとり取って主と共に歩いていた二人でしたが、この日は違います。彼らは主から隠れた。ここは非常に重要なポイントです。

“聖書が私を罪から遠ざけるか、罪が私を聖書から遠ざけるか”という古い格言はまことに真実です。どういう意味かと言うと、私の人生にも反逆があり、罪もはびこっています。するとどうなるか分かりますか？

ここでのアダムとエバのように、私は主から逃げて身を隠します。つまり、みことばへの欲求がなくなり、私の場合は欲望を世に求める。それは、そよ風の吹く中を主と共に歩き、神の声を聞く方法でもあるみことばへの欲求を減らしてしまうのです。

だから、私がみことばへの欲求を失った時に最初に疑うべきは、自分の中で何か反逆が起こっていないかということ。対処すべき罪が私の中にはびこっていないか。

「主よ。私はあなたと一緒にいたくはないのです。私は私自身の肉なる木々の中に隠れています。私はそよ風の中をあなたと共に歩きません。以前はそうしてたけど。」
二人は隠れていました。

神がアダムに呼びかけています。

神である主は、人に呼びかけ、彼に仰せられた。「あなたは、どこにいるのか。」

(創世記 3:9)

「神を求める人はいない。」(ローマ 3:11) 誰もいない。

今、アダムとエバは墮落した罪深い状態にあって、神から身を隠しています。

イガイガ、チクチクするいちじくの葉で覆って。

そこへ神が探しに来て「あなたはどこにいるのか？」

神が彼らの居場所を知らなかったと思いますか？ そんなはずはありません。

「どこにいるのか」この呼び声は、警察が犯人を逮捕する時の警告ではなく、お父さんの傷心の叫びでしょう。父が説得しているのです。

神が「おまえたち！どこにいるんだっ!!!」と追いかけて来るのじゃない。全く違う。

これは、神がため息のように、父が嘆きながら言っているのです。

「どこにいるんだ？ わたしに話してごらん？」

「どこだ!!!」ではなく「なんてこった！」でも「なんでこんなことを!!!」でもなく、

ただ「どこにいるんだ？ そのイガイガしたいちじくの葉でいいのか？」「わたしからずっと身を隠したままで楽しいかい？」

以前は裸だった二人。神ご自身が「あなたは光を衣のように着」(詩篇 104:2)と言っているように、その時はアダムとエバも、同じように光を衣のように着て身を包んでいました。皆さん、その時は光があったのです。

しかし今(*1994年)は暗闇で、性の美が恥、性倒錯、社会問題となり、それを隠そうとしますます惨めになり失敗している。

「どこにいる？」「幸せか？」「どこなんだ？」

彼は答えた。「私は園で、あなたの声を聞きました。それで私は裸なので、恐れて、隠れました。」

(創世記 3:10)

すると、仰せになった。「あなたが裸であるのを、だれがあなたに教えたのか。

あなたは、食べてはならない、と命じておいた木から食べたのか。」(創世記 3:11)

「どうやってそれを知ったんだ?」「どこに行っていたんだ?」

「なあアダム。あなたは、食べてはならない、と命じておいた木から食べたのか。」

ここでも神は「どういうことか説明せよ!」とは言っていません。

神は詳細を求めているのではない。アダムがしたことをよく知っているから。

神が求めているのは、情報ではなく告白なのです。

アダムがただ正直に「お父さん。私は間違いを犯しました。」と言うのを待っていた。

神は、私が御前で罪を自ら告白することを望んでいます。それは私に恥をかかせるためではないし、私の罪についてもっと詳細を知りたいからでもありません。

いいですか。よく聞いて下さい。

罪を告白する時、罪が持っている私を縛り付ける力が弱まるのです。

それが告白の醍醐味! だから、告白することは大きな意味を持つのです。

告白があなたを赦すのではなく、あなたに赦しをもたらすのでもない。

赦しは既に与えられています。私たちのためにキリストが十字架にかかったゆえに。

では、なぜ告白するのですか? それは自分のためです。

私が父に自分の罪を話す時、ただ「罪を赦して下さい」と言うのではなく、私がやりがちな態度や行動について、本心から父に語りかける時、告白という行為は、罪による縛りから私を解き放つのです。

神は、彼らがそれから解放されるために、そしてまた前に進むためにアダムに告白して欲しかった。

「で、あの木から食べたのか?」ここでアダムが何と言ったか、見て下さい。

人は言った。「あなたが私のそばに置かれたこの女が、あの木から取って私にくれたので、私は食べたのです。」(創世記 3:12)

「アダム、実を食べたのか?」

「いやいやいやいや!! 女が!!!!」「この女が!」「この女…あなたが私のそばに置いたこの女が!」

女を責め、そして…間接的に神のことも責めている。よくある責任転嫁の心理ですよ。

「あの女が…! あなたが…!」

聞いて下さい。私たちが人を責める時はいつでも、配偶者、親、上司、同僚、ご近所、誰であれ誰かを責めることは、結局、神を責めていることになるのです。

なぜなら、誰がその人を私の人生に関係させたのですか? 神です。

誰がその人を私と一緒に働くことを、家族の一員になることを、そばに住むことを許したのですか? 誰ですか? 誰が許したのですか? 神です!

だから、もし私が誰かを責めたり、不満を持ったりしたら、実際は、神を責めていることに、神に文句を言っていることになるのです。

アダムがここでしていることは、そういうことです。彼は神に背き、罪を犯しました。

そして次は責任のなすり合いを始める。「あなたが与えたこの女」と。これが問題です。

そこで、神である主は女に仰せられた。「あなたは、いったいなんということをしたのか。」女は答えた。「蛇が（アダムではなく蛇が）私を惑わしたのです。それで私は食べたのです。」（創世記 3:13）

ここで、父の愛を知って下さい。神はアダムとエバが非難合戦をするのをそのままに、ただ彼らが言うに任せ、好きなように言わせ、互いが責め合うのを厳しく咎めたりせず、黙って見過ごしました。

それから主は蛇に向かって、神である主は蛇に仰せられた。（創世記 3:14）

「おまえが、こんな事をしたので、（おまえがサタンに心を明け渡したので、おまえは美の創造物だが）おまえは、あらゆる家畜、あらゆる野の獣よりものろわれる。

おまえは、一生、腹ばいで歩き、ちりを食べなければならない。」（創世記 3:14）

蛇は生きている限りそれをし続ける。サタンは蛇となりました。

蛇は、ちりをその食べ物とし（イザヤ書 65:25）

たとえ千年王国で全てのものがエデンの園のような状態に戻ったとしても、全てが元の状態に戻っても、蛇だけは明らかに違います。蛇だけはずっと呪われたままで、腹ばいで歩き、ちりを食べます。

そして主は言いました。

「わたしは、おまえ（蛇）と女との間に、また、おまえの子孫と女の子孫との間に、敵意を置く。

彼は、おまえの頭を踏み碎き、おまえは、彼のかかどにかみつく。」（創世記 3:15）

ここで、永遠に続く蛇と女の問題について、二つのことが告げられました。

今も続いていて誰にも明らかなこと。女性が蛇を見た時には、大抵大変なことになる。

実際に、いいですか？ 興味深いことに、罪によってできた友人は、結局は一生の敵になります。分かりますか？ 本当ですよ。

人が罪の中で親しくするなら、人が罪を通して関係を結ぶなら、最後は互いが生かしておけない敵同士になるのです。そうなるのを私たちは何度も見てきました。

人が一緒になって罪を犯していたら、何年かすると、それぞれ互いが耐えられなくなる。

互いに関わり合いたくなくて、顔を見るのも嫌になる。

なぜなら、その関係は罪によって成り立ち、罪の中に浸っているものだから。

罪の中の友情は、いつか人生の宿敵となります。本当です。

それがここでも起きています。

蛇と女は、エデンの園では仲良くやっていました。罪が入り込むまでは。

今、神は言います。「これから先永遠に、あなた方の間には問題がある。」

これはとても現実的な問題ですが、同時に預言的なメッセージでもあるのです。

みなさん、聞いて下さい。

この 15 節は非常に大きな意味を持っていて、『原福音』と言われます。

つまり、聖書の中で、初めて福音について述べられている箇所なのです。

創世記 3:15。罪の直後に最初の福音がやって来る。

どうか、よく見てチェックして下さい。

蛇に対して、蛇だけではなく、サタンと悪霊の全てに「おまえの子孫と女の子孫との間に、敵意を置く。」

ちょっと待って!! 女の子孫!? それは、女の精子。

つまり、生殖に関与する“女の種”ということですが、それはあり得ない。矛盾します。“種”は常に男と関連付けられるのに、ここでは「女よ、“あなたの種”」となっている。

これはすなわち、超自然的な形で女から生まれる者を指しています。それは誰ですか？

超自然的な受胎、超自然的方法で女から生まれる者。当然、それはイエスですね。

ガラテヤ 4:4 を見て下さい。キリストについて、“女から生まれた者”“律法の下にある者”と書かれています。

キリストが現れて、救い主であり約束された方、女の種が「おまえの頭を踏み砕き」、つまり「女よ、あなたの種がサタンである竜や悪霊の頭を踏み砕く。」

しかし、「その同じ竜が彼のかかとに噛みつく。」彼は噛みつかれる。

ここで十字架の絵が見えて来るのです。私たちの悪のためにキリストが打たれた場所。

イザヤ書 53 章。彼は十字架の上で砕かれました。

しかし、十字架上でキリストは何をしましたか？ 彼はサタンの頭を砕いたのです。

だから、サタンは今後一切、あなたや私に何の力も持ちません。

なぜなら、サタンの力が発揮されるのはただ一つ、“罪”によってのみなのでから。

あなたの罪が洗い流されたのなら、もはやサタンがあなたを縛り付ける力は何もない。

サタンがあなたを縛る力は全くありません。

あなたの罪は洗い流されています。私の罪も同じように。

何によって？ 神の子羊の血によって。

つづく

見よ。主の手が短くて救えないのではない。その耳が遠くて聞こえないのではない。

むしろ、あなたがたの咎が、あなたがたと、あなたがたの神との仕切りとなり、

あなたがたの罪が御顔を隠させ、聞いてくださらないようにしたのだ。

(イザヤ書 59:1 - 2 新改訳 2017)

主は人がいないのを見て、とりなす者がいないことに啞然とされた。

それで、ご自分の御腕で救いをもたらし、ご自分の義を支えとされた。

(イザヤ書 59:16 新改訳 2017)